



福は内、鬼も内

永田円了

The Shadow Teaches

鬼は〜外、福は〜内、と鬼を外に追っ払うのが節分の行事。鬼を追っ払えば、幸せが来るということなのか。キッチンハイターで台所を除菌すれば清潔になり健康になる、というような神話を信じなさいということなのか。医学的にいえば、私たちの清潔志向が逆にアレルギーの主因であり、大切な免疫力は、人間と共存してきた細菌の種類や数が増えるほど逆に高まる（免疫学者・藤田紘一郎）ということを知るべきである。

さて、鬼、西洋では悪魔の存在は果たして、外に追い出さねばならないほど、人間にとって敵なのだろうか。否、実は悪魔は神によって造られたものなのである。悪魔をつくることによって、人間は苦しむ。しかし、その苦しみの中で、信仰というものが善を生み出す。（小説家・精神科医・加賀乙彦）

悪を認識したときのみ、私たちは人間の極限までの可能性として、偉大なる善を考えるのではないか。悪の陰影がないということは、そこには一種の幼児性が働いているということではないだろうか。

純を愛しても人を困らせ、不純を愛しても社会を困らせる。しかし、どちらにしようかと悩まない人が一番怖い。現世には、完全にいい人も完全に悪い人もいない。その中間にいる人ばかりである。だから、完全にいい人の代わりに、人間は神という概念を思いつき、完全に悪い人の代わりに悪魔という存在を考えた（作家・曾野綾子）。



心の中の鬼の存在をどう扱ったらいいのか。鬼と闘うのか、それとも鬼から逃げるのか。野生の動物には、この二つの反応しかない（Fight or Flight）。しかし野生から進化した人間のとるべき道は次の三つであろう； 1) 自分の中の鬼と向き合う 2) 鬼に敬意をもつ 3) 鬼から学ぶ この学びの過程を通して、人はトータルに人間という存在を受け入れることができるのではないだろうか。

戦争は最大の悪、しかしパラドックスとして、戦争は人の命の尊さを教えてくれる。人間を平時では考えられないような精神の深みに導いてくれる。戦争の悲惨さを体験した人は、もう決して戦争は起こさない。自分の心の中の悪を認識することによって、悪に道を譲ることはないのである。マザー・テレサも自分の中にヒトラーがいる、と言った。しかし、テレサは決してヒトラーを生きることはなかった。

<事例 DVD>

Sleeping Beauty 眠れる森の美女
 フレックスルー「発達障害と共に生きる家族」うちの火星人
 詩人・吉野弘「夕焼け」／現世には完全にいい人も、完全な悪人もいない
 シャーリー・マクレーン／悪人から学ぶ／マザー・テレサも自分の中にヒトラーをもっていた
 サンデル教授の中学生白熱教室／いじめの根は、全ての人がもつ
 武田鉄矢／本当の善人は、どっかで悪人の覚悟をしている
 五木寛之 vs. 塩野七生 対談／死を弄ぶことは許されない／
 戦争（悪）は、人間の欲望を単純化する
 木下恵介監督「陸軍」／息子を想う母の気持ち
 白鯨 Moby Dick / 影と闘うエイハブ船長
 カラマーソフの兄弟／人間の心の闇を問う／あなたも犯人だ！
 作家・加賀乙彦／神が悪魔を作った／悪を突き詰ると神がでてる
 作家・森達也／優しい人の中の悪／9.11 テロ、ワクワクするものがあった
 歌・The Sound of Silence サイモンとガーファンクル、セントラルパーク 50万人

